

2007'

漁船ミニコミ紙
みなと便り

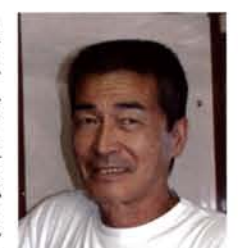
平成十九年

新年特別号

～新年特集号～

- 『これが現代のマグロ船だ！』
第53欣栄丸 訪船取材
鮪船日本一 濱幸水産(株)
- 『七つの海で鮪を追った大船頭』
第7勝栄丸 熊谷千代治氏
- 『叩き上げの船乗り人生』
第8神明丸 千葉 実氏
- 連載『時代の流れ』 吉田 登

これが現代のマグロ漁船だ！



西村徳則漁労長

遠洋鯖延縄漁船 第53欣栄丸 469t

岩手県釜石市濱幸水産株式会社
最低水準の生活を確保出来ない人達、いわゆるワーキング・プアと呼ばれる人口が何と650万世帯に達している。今や国民の生活もマグロ漁業同様、苦しいからつらいものにも「ミナミマグロ半減」ニュースで重苦しくなる港町。そんな話題も冷めぬうちに今度は西経物のメバチ、キハダも漁獲削減か。「国は何故、こんなにも俺達を苦しめるのか」。現役船員たちからそんな叫びが聞こえる。日々そんな時代、今日も遠洋鯖船が出漁する。



2006(平成18)年9月6日、気仙沼を出港する第53欣栄丸(469t)

ある日、私の携帯電話がけたたましく鳴った。漁業関係のあるメーカーさんから「すぞい船」といつ見られるかわからないよ」との事、早々気仙沼の商港岸壁に急行した。第53欣栄丸。「うーん、デカイ！」どこがすぞいの船を見たか、取材で多くの船を見て来ているがここまで漁労長室に入るとそこは、どう見ても社長室だった。あてやかな高級デスクと柄を揃えた書庫がある。今、この船の漁労長にスカウトされた高知県土佐市出身の西村徳則漁労長。「いいから見てよ、見てよ」「すぞいやら」と、初めてこの船を見た時は目を疑ったと言った。おおよそ8畳はあるのか、応接セットにやや広いベッドがあり、家庭で使う大型冷蔵庫を配してある。まさにいたれり尽くせりの豪華ホテル並だ。

■自慢の船

平成十年五月に静岡県清水市の株式会社サシ重工で竣工した。メインエンジンは新鴻ディーゼル製一八〇〇馬力を搭載。建造費用は当時で六億三千万円。平成十四年に同じくカナサン重工で完成した第138欣栄丸(439t)は約五億で造られた。時代の背景もあるが、船員を大切にしたいという船主の思いが伝わる船のようである。



漁労長室の高級デスクと書庫、とにかく豪華！

「我が社の中でも自慢の船のひとつです」と話したのは専務の濱川幸三氏。訪船時、船員と一緒に汗を流し合羽姿で魚船に入り清掃作業をしていた。今時めずらしい御曹司と思っただけは代表権を持つ専務だけではない。以前、何と甲板員として二年航海も経験している。編集部の取材にも快く応じて頂き誠実あふれる、さわやかな好青年だ。マストに登ったり、船員と一緒に汗を流す。これも二年の航海に培った船員とのふれあいである。



漁労長室 デスク前側にソファセットが配置

漁労長室のハウス(ベッド)もゆりのりのスペース。左の写真は部屋から見たブリッジ(船橋)。操舵機が見える。漁労長室はその奥にも通路があり、トイレ、洗面所、洗濯室等がある。この部屋でほとんどの日常生活が支障なく過せる。



■一般船員室

乗組員は日本人船員とインドネシア船員合わせて二十四名が乗り込む。特に日本人船員の部屋は全てシングル(個室)で造りも漁労長室に併せた材質を使用している。高さがあり、収納スペースも十分に長期航海にも十分対応出来る居住区だ。一方外人船員の部屋も同じ材質が使われており、全ライバシーを重視している。

濱幸「欣栄丸」

濱幸水産(株)、本社を岩手県釜石市に置く。遠洋マグロ漁船十一隻、近海トロール船二隻の合計十三隻を所有している。近年の年商は三十億から三十三億の間。これは所有する船が全一年以上の航海をする大型船である。入港しない年もあり、年商は年によって相場も変わりバラツキがある。現在、もっとも厳しいマグロ船の経営する会社としては常に好業績を挙げている。これまでの最高水揚げ金額は第81欣栄丸が平成八年に八億二千万円を記録していた。相場に恵まれ実績が叶った結果だ。航海日数一年六ヶ月。一般船員の給与で約一千万円。すばらしい成績だ。

その記録を立てた西郡漁労長。濱幸水産の船は、今年の一ヶ月から三ヶ月間、西インド洋でのキハダ漁。一六回の操業でキハダ三六〇吨を漁獲した。多い時はキハダが一日七百本釣れた時もあった。約数三六〇〇本、乗組員二十六名、とにかく釣る船頭だ。自分以外は全て船員。幹部職員も外人船員と一緒に働いていく。つらい事も多いがこの船頭に付いていけばきっと大漁してくれる。船員が頼る思いに作業に力も入る。



濱川幸三専務

その後はあきらめ、いつかは帰れるだろうと腹を決めたそうである。社長の息子でも容赦なく一甲板員として使われ、幸三氏は息子のプライドを捨ててまっとうして来た。今はプランリールを使用して作業を行うが幸三氏は最後まで手でプラン手繰(たぐり)をさせられた。機械のない時代は全て手繰り、当時の船員の思いと現場の厳しさを知った。背広から作業服や合羽に着替える事が容易に出来る数少ない漁業家の御曹司である。

航海へ



出漁前の記念写真。ブルーの制服は濱幸水産の陸上勤務の精鋭達

幸三氏が大学を卒業した平成九年に乗船した。出港して二ヶ月経った頃、どうしようもなく帰りたくなった。漁労長は「下された。タウソクから南インド、大西洋、連日、時化の海での操業に嫌気」と怖ろしく感じた。時、お付き合いが長かった。一日が長く感じた頃だった。

出逢いを大切に



濱川幸雄社長

欣栄丸はとにかく腕の良い漁労長陣が多い。漁労長は全て濱川社長がスカウトする。第53欣栄丸の西村漁労長は北海道の第158俊洋丸に乗船していたが会社の整理売船により退職、今回のスカウトとなった。濱川社長は十年前から西村氏を迎えたいと思いがあつた。人との出逢いが幸運を呼び、船員を大事にする思いが結果、大漁につながる。

81号船の西郡漁労長、今引退した第138欣栄丸の山田勝八郎漁労長がまたすぞい。439吨の船を新船時代から毎航海、一年以上の航海で大西洋から帰港させている。五億以上の水揚げ記録もある。北海道の昌徳丸から欣栄丸に移り、今年惜しくも引退した。船頭は生涯億円の水揚げをする人は少ないがこの山田漁労長は一三〇億円を挙げた人と濱川社長は語る。普段は気さくな濱川社長。三時間にも及ぶ取材の中で船員への熱い思いと船員やその家族へのやさしさと思いやりを感じた。濱川社長は人の出逢いが好きだと語り、豪華に造られた船内は決して見栄など造ったものではない。

濱幸水産では平成元年から「ふれあい便り」という家族あてのハガキを毎月出す。各船の様子から今月の言葉や歌等、両面に情報満載。新年一月号で第222回を数える。そんな濱幸水産では今年九月に完成予定の船を気仙沼市の吉田造船鉄工所(吉田慶吾社長)で建造する。現在の船の年間水揚げを計算すると2億2千万3千万円。船価としては3億5千万円程度に抑えなくてはならない。どうすればよいかを考えた。そこで浮上したのが再利用方法。老朽化した128号船から移す新たな挑戦。船を増や船員を雇用したい。濱川社長の熱い思いはいつまでも船を見送る姿に写し出されていく。取材協力感謝します。

高齢化する乗組員の健康は生活の場である居住区から見直し。遠洋船で初めて単寝台にしたのが第108欣栄丸(379t)。積荷が従来より減る事よりむしろ乗組員達クルーの居住性を図った。船が出港すると余計な口出しや指示は一切なし。航海は全て船頭任せだと言ふ。濱川社長は各船頭の腕を信じ、良く人を見極める。すると感性がある。



社長、専務、漁労長の挨拶の後、乾杯で大漁と安全航海を祈願した。

謹賀新年
気仙沼市指定給水装置工事事業者
有限会社 気仙沼ポイラー設備
〒988-0064 宮城県気仙沼市九条489-41
電話 (0226) 22-8422 FAX (0226) 22-3733

酒庵 sakura-ya
謹賀新年
気仙沼市南町一丁目一〇九
(0226) 2318670

謹賀新年
濱幸水産株式会社
幸栄漁業株式会社
代表取締役社長 濱川幸雄
TEL: (0193) 22-4171 FAX: (0193) 22-2088
岩手県釜石市浜町三丁目11-2

地域に文化と活力を売る
鮮度と納得がうりもの!!
真心かようヒューマン広場
フレッシュ・スーパー (株) からくわフードセンター
謹賀新年 年中無休
宮城県気仙沼市唐桑町馬場149の3 ☎ (0226) 32-4156

昭和の漁船写真展

昭和三十年代後半、高度成長期と共に遠洋漁船の近代化が進み、次々と画期的な船体技術を始め、漁業機器が開発された。しかし、その中で進む技術に過剰で安易な信頼をした結果、海難事故や転落事故も多く発生した。しかし、高収入の職場は船乗り達が競って大漁をする船に殺到する場だった。そして数々のドラマを残してきた。マグロ漁業への期待と不安が交差する港町。刻まれた歴史を振り返ってきた。

写真上は昭和三十一年に撮影された気仙沼市場での水揚げ風景だ。寒い夜の水揚げは船員にとって堪える。近海船の入港は何故か決まって夜が多い。寒い夜中の水揚げ。休憩に食べる真夜中のラーメンは何よりうまかった。



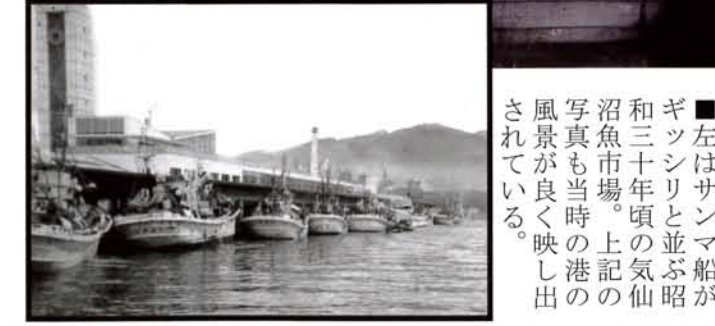
39吨型近海まぐろ船

昭和二十八年頃のマグロ船。当時は左右の舷側が船体後部まで通しとなっていて航海中は絶えず海水が入り込んで来た。この造りは通しデッキと呼ばれ、海難事故を誘発した一つの原因にもなった。カツオ・マグロ漁船は昭和二十三年に農林水産大臣の許可制になるまで自由な操業が認められていた。昭和三十一年には四〇トン以下の船は漁業権不要の自由な操業が認められ、日本全国の港で次々と39吨(サンキュー)型のマグロ船が登場した。その結果、遠洋漁船との漁場の競合や過当競争で無理な操業から事故が多発し船員の間から「神風特攻隊」「ノーサンキュー」などと敬遠された。昭和三十八年、全船許可制になるまで続き、漁業法改正によりボーンナス屯数が付与され47吨型へ移行し、通しデッキも三崎港・住吉漁業所属の「正天丸」を皮切りにその姿を消し遭難事故も減少していった。



「託送」・昭和四十年代半ば、西経漁場で操業する気仙沼港所属のマグロ漁船。写真は会合の風景。長い航海で家族との結びつきのひとつに「託送」がある。

船主事務所から託送の連絡が入ると指定期日まで荷物にして届ける。思いの品手紙を添えて同じ海域へ出港する船や僚船に託送品を頼んで遥々、洋上の父へ夫へと運ばれる。家族や船員、関係者からは「託送」と呼ばれている。会合はその他にエサや食料を譲ったり、本やビデオテープの交換等にも利用された。



昨年八月より河北新報社「リアスの風」に「昭和の記憶」として漁船写真展をシリーズで連載しています。新年もどうぞお楽しみに！

謹賀新年

平成十九年(二〇〇七年)がスタートしました。読者の皆様、新年明けましておめでとうございませう。昨年がマグロ問題が更にクローズアップされた年でもありました。特に遠洋マグロ漁船が減船以来、一気に減少してしまいました。冬の夜、吹雪の中を漁船がかすかに泣いているように岸壁で船体が揺らいでいた事を覚えています。そして、すすり泣くかのようにキリキリと音をたてて泣いていました。

昭和時代、日本古来の延縄漁が最盛期を迎え、世界中の海に出かけて行きました。その影には様々な人間ドラマもありました。船乗りを支えて来た港の商人、魚市場漁業関係者、そして船員のその家族と友人、知人。特に船乗りの恋愛による秘話物語は数多く残されています。今年はその昭和の時代の物語をノンフィクションで書き下ろして見たいと考えています。そして、忘れてはならないのが活躍してくれた漁船たちの存在です。私はそんな活躍した遠洋漁船たちを本物の意味で歴史に残して行きたいと思っています。活躍した船員達だけではなくその道具として利用された船も命ある限り活躍してくれました。その活躍した昭和の物語を当時の様々な問題に焦点を絞り、各方面、各分野、様々な角度から取材したことをもとに現在、執筆中です。今年の夏前には書店の店頭に並べる事が出来ると思います。

又、本年新年号は創刊以来、初めてのカラー印刷にする事が出来ました。これも一重に広告協賛店や定期購読して頂いている友の会会員の皆様のおかげです。心から感謝しております。ありがとうございます。

遠洋漁業で生きてきた港町。そんな故郷で過ごして来た多くの皆さん。少しでも活躍した船乗り達の為に、そして漁業の町の為に、水産大日本にも水産漁業の歴史を残す為、ご支援下さい。漁業のよき時代、少しでも恩恵はあったはず。今こそ、遠洋漁業にエールを送り、恩返しのためご支援頂ければ幸いです。

平成十九年 元旦
熊谷 大海

訂正

カラー頁の3ページ二段目3行目の記事で「今年の一月から...」とありますが「昨年」の誤りですので訂正してお詫び致します。



『熱中時間』<お正月スペシャル> 1月5日、NHKハイビジョンで放送

水産漁業界の激動の昭和時代に生きた船乗りたちと活躍した船達、そしてその歴史の証しを残そうと活動しています。発行以来、お陰様で三度目の新年号を発行する事が出来ました。「みなと便り」は広告と定期購読者の支援で毎月発行しています。遠洋漁業の文化と歴史に今年も皆様からのご支援をお待ちしております。

定期購読のご案内

毎月の定期購読をご希望の方は「みなと倶楽部・友の会」にご入会下さいませよう。案内致します。お申込みは編集室へご連絡下さい。遠方の方は「現金書留」に氏名住所、電話番号を記載して編集室までお送り下さい。

みなと倶楽部 友の会

個人 年会費 四千元
会社・団体・組織 六千元
【年間郵送料千円含む】

『みなと便り』新年号 目次

- 特集・「これが現代のマグロ船だ！」
遠洋延縄漁船 第53欣栄丸 訪問記
岩手県釜石市 濱幸水産株式会社 訪問記 2
- 紙上「懐かしの漁船写真展」
昭和の漁船写真展 4
- 昭和の航海記①
『七つの海を航海した大船頭』
第7勝栄丸 元漁労長 熊谷千代治 氏 6
- 昭和の航海記②
『叩き上げの船乗り人生』
第8神明丸 元漁労長 千葉 実 氏 9
- 連載『時代の流れ』
第十三話 『異なる米に泣く』 吉田 昇 12

取扱協力店！

- (南町) 文信堂書店
- (田中) 条南ブックス
- (階上) ブックハウス プロス
- (階上) ブックハウス 大信階上店
- (若月) デイリーフーズ 鵬城
- (仲町) リアスサービス
- (仲町) 宮脇書店 気仙沼店
- (鹿折) いこま青果
- (河北新報社) 気仙沼支局(三階)
- (海老市) 二階ホール
- (ホテル) パールシティ 気仙沼
- (アベキ) 気仙沼港町給油所
- (大島フェリー) 商港乗待合室
- (南町) エースポート乗船券売場
- (からくわ) フードセンター
- (ながさわ) 唐桑はやま店
- (有限会社) 根口商店・唐桑町唯越
- (ローソン) 大谷海岸前店
- (はまなす) ショッピングタウン
- (本と文具) 昭文堂 本吉町
- (大島汽船) 浦の浜発着所 大島
- (スーパードコックス) 大島

◆謹賀新年◆
名刺・はがき・封筒・挨拶状など各印刷
自伝・記念誌等の制作編集
自分史出版 予算に合わせて作ります
みなと倶楽部 ☎(0226)25-3777

元遠洋まぐろ船の機関士が綴った38年間の航海記録
思い出の操業日記
A5版. 255頁 1400円 気仙沼市内各書店で販売中！

遠洋漁船ミニコミ紙
月刊『みなと便り』平成17年度 保存版
B5. 100頁 1000円 気仙沼市内各書店で販売中！

謹賀新年
有限会社 小野寺塗料店
代表取締役 小野寺 武雄
〒988-0031 宮城県気仙沼市潮見町二丁目140番地
TEL:(0226)22-9252 FAX:(0226)23-2160

河北新報 リアスの風
漁船写真『昭和の記憶』連載中！
(解説:「みなと便り」発行の熊谷大海さん)

賀正 三陸河北新報 〒988-0037 気仙沼市市場前1-1
気仙沼支社 電話 0226(23)3254
FAX 0226(23)6780

昭和の航海記

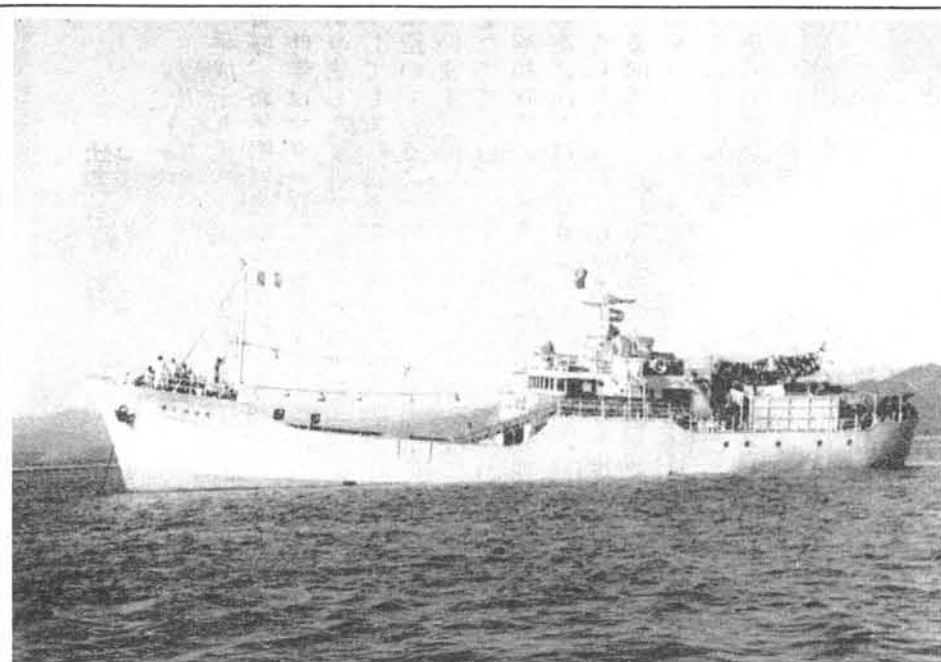
【第27回】

七つの海で鮪を追った大船頭

遠洋鮪延縄漁船

初代 第7勝栄丸

元漁労長 熊谷千代治(85)氏



昭和36年、新潟鐵工所で進水した大型鋼製鮪漁船・第7勝栄丸(239t)



熊谷千代治氏

生い立ち

大正時代、船乗りの家に生まれ、太平洋戦争を経験...

カツオ船時代

千代治は幼い頃から大きなカツオ船に乗る事が夢...



向かって後列左端のマル内が千代治氏

「おしまっ」

当時のカツオ船はその季節の出漁前、船員が一同に集まり、船頭宅で「おしまっ」なる集会所も兼ねる...

兄の戦死

昭和十六年、日本は太平洋戦争へと突入した時代だった...

帰還、そして結婚

戦場からの帰還、まっつとの結婚で千代治は男として大きく成長する事になる...

漁労長へ

昭和二十三年、千代治が二十八歳になった時、甲板長まで勤めた第2精良丸を自ら希望して下船した...

勝栄丸へ

昭和二十三年、千代治が命の出会いがあった。勝栄丸の勝倉和平氏だった...



千代治の父・千葉留、人選は鋭かった。

遠洋航海への幕開け



メキシコの補給地マンサニヨ港に入港

昭和三十六年になると大型鉄鋼船の建造が相次ぎ、第7勝栄丸(239t)が建造された...

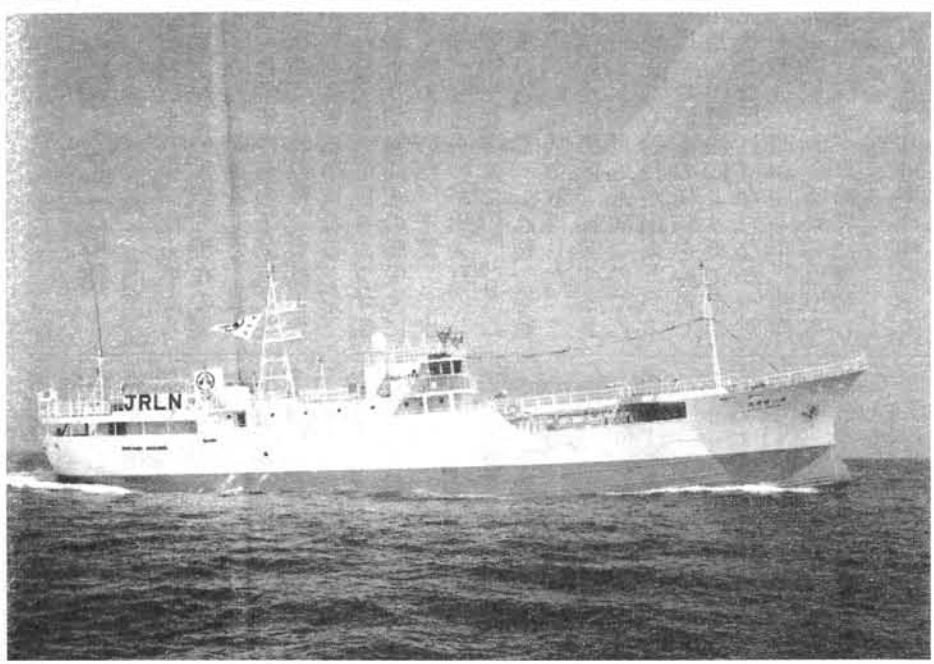
応援します！ 水産漁業とその歴史！

謹賀新年 リアスサービス 気仙沼市仲町二丁目1番8号

謹賀新年 株式会社北興物産 宮城県気仙沼市田中前一丁目3番地9

水産漁業とその歴史！ 気仙沼市湖見町二丁目二十七番地

賀正 自動車・火災・傷害等の損害保険 日新火災海上保険株式会社 代理店



現役最後のマグロ漁船・第8神明丸(379t)

平成十九年 新年号

◆昭和の航海記◆

【第28回】

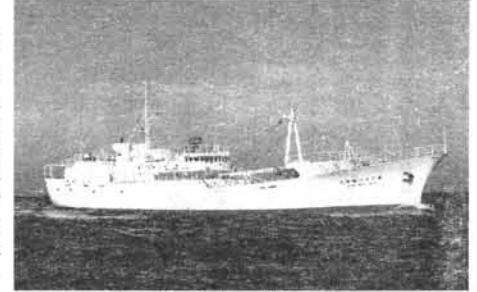
叩き上げの船乗り人生！

遠洋鮪延縄漁船 第8神明丸
神白水産(株) 所有
元漁労長 千葉 実(70)氏



千葉 実氏

初めての大規模な台風が、台湾沖で大型の台風を遭遇した。この時、千代治は最後の最後の体験をした。台風の目の中に入った。また、この目の中は、中心は晴れていて、湾内と同じ海面が穏やかだった。台風の前からはずれた時から悪夢が始まった。風が強く、ねりが高い。通常の荒天と違い、風とうねりの方向が違っている。船が風に立てて支えられないのである。船首を風上に向けたのがある。船首を風上に向けたのは、船首を風上に向けたのが正しい操船方法だが、この時は、操船方法も知らなかった。操船方法も知らなかった。操船方法も知らなかった。操船方法も知らなかった。



全天候型マグロ漁船 第38勝栄丸(284t)

昭和五十六年一月、二代目の第7勝栄丸(344t)が完成し、この船に現役を引退する平成三年まで乗船した。

乗船中は死亡事故はなかったものの、投縄中、手に釣りかけた船員が海中に転落、その船員を助けようとして、船員も飛び込んだ。まだ夜が明けぬ海域は慌ただしさを増した。転落した船員の釣りは切られており、二人の船員は投げ入れられた浮き玉の間に浮いていられた。船員達は発見された安堵からか「人間がこんなにもいい笑顔ができるものか」と思う程、いい笑顔だった。

大西洋への挑戦

もうひとつ、忘れられない航海があった。昭和四十六年の事、当時、高知県船が開拓したとされるニューヨーク沖へ行った思い出が懐かしく感じられる。友人の福徳丸の漁労長・梶原三氏と二隻で初めての大西洋へ挑んだ。



航海中、縄作りの作業をする千代治氏

家族

千代治は昭和九年に地元尋常高等小学校を卒業後、十二年から満州出兵の四年間、休まず乗船して来た。乗船期間四十九年六月。約五十年、半世紀に及んだ。父・徳右衛門は若い頃は父の勇ましい姿に憧れた。長男・留七は借しても戦死、三男・栄七は第2次大戦で丸で兄・千代治と共に乗船している。又、四男・純七はカツオ船・稲荷丸を初めて福島の船乗り人生を始めた。父・千代治と競い合った仲でもある。漁業で一家の生計を立てて来た。家では母ふみが皆の面倒を見てきた。そり、もうひとり忘れてはならない人がいた。妻。いまやある。安心して長い航海に出られたのは全て妻の支えがあったからと言。その妻が平成四年病に倒れ、帰らぬ人となった。何から何まで女房任せだった千代治は改めて妻の有り難さを知ったと言う。妻が居なくなると自分自身に気が付かなくなった。慣れるまで数年を要したほど。

漁師の子

千葉 実氏。昭和十二年一月、気仙沼湾に浮かぶ大島横沼地区の出身。今年、七十歳を迎える。大島と言えば優秀な鮪船の船頭達を多く輩出して来た所である。父・伊東栄治郎、母・とみよの二男として誕生した。明治生まれの父・栄治郎は若い頃から船乗り。若い頃は家族の為、激寒の北洋漁業に従事した。年を追う毎にカツオ船、マグロ船とそれでも漁師一筋で家族を養った。母・とみよは家で兄弟六人を一生懸命に育ててくれた。長男・昭治氏は家族の為、父同様に船乗り。の道に進んだ。この頃から兄のお陰でずいぶん生活は楽になった。

カシキ時代

昭和二十七年春、地元の大島中学を卒業すると、父の父の漁の手伝いをして来た。その年の秋、兄が船長をしていて、父は船長をして来た。初めて大きな漁船。幸い酔いはなかった。当時を振り返るとカシキ船は絶対であった。地方からの船員が多かった。いわゆる寄せ集め船員だった。船番で寝ていると酔った船員が帰ってくると夜中、水を含んだ。



第31勝栄丸(297t)の出港風景

当時の漁船は上下関係が厳しかった。この時が一番つらい頃だと言う。しかし、そんな船員達だったが沖に出ると、一旦、漁が始まると仕事もきりで漁技術の腕も確かだった。翌年の昭和二十八年五月、カツオ漁が始まった。父が乗っていた福島県いわさきの第7日康丸(118t)に乗船した。一年目はカシキだったが二年目からは甲板員として乗り組む事が出来た。カツオ船は昔のしきたりを重んじ、上下関係も尚厳しかった。当時のカツオ船は晩秋になるとカツオ漁が終結後は裏作としてマグロ延縄漁へ出ていた。冬の海は厳しい。乗船一年目は危険との判断からマグロ漁への乗船は許可されなかった。その後、日康丸には7号を皮切りに、8号、18号、乗り継いだ。中でも第8日康丸(69t)では野島丸船団で半年間、母船式南方操業を経験した。木船のたつた69tでニューギンランドの北島沖のパチ、キハダ漁をした。良くやっとなりと当時を振り返り思い出す。この頃になると甲板員から役付にもなりカツオとマグロ漁を操業した18号では冷凍長を経験した時期だった。

船長

昭和三十五年になり、乗船履歴を必要とする海技免状の取得を目指し、みごと乙二(乙種二等航海士)を取

免状を手にした実はその年の五月、日康丸に戻り冷凍長を経験した。第18日康丸で船長デビューを果たした。当時の船長が漁労長に昇格し、船長の空気が出来た。実、二十三歳の年だった。

昭和三十七年、同じいわき港所属の第11辰巳丸(木造108t)に乗船して2回目の南方母船式船団に参加した。古い船が為に事故が起きた。燃油漏れだった。船は近くのラバウル島へ緊急入域。湾外からはパイラー(水先案内人が舵を取った)。湾が深いラバウル島はまた太平洋戦争の傷跡が生々しくサルベージ船が大破、沈没している軍艦の撤去作業をしていた。この時、緊急入域で上陸は許可されなかったもの、日本の漁船として初めてラバウルへ入港した。その後、漁期終了で下船、丸の第10勢栄丸(木造179t)に一等航海士として乗船したが帰港時、老齢化で油圧が故障、巡視船「おじか」に曳航され無事帰港した。昭和三十八年四月、第2耕洋丸(84t)で3回目の南方母船式船団に参加した。この時はブイシー、タヒチ、ソロモン等を半年間操業し、故郷へ帰港した。

2007'平成十九年版
漁船カレンダー

『昭和の思い出』編
昭和40~60年代の近代カラー写真
見開きA3版 1400円(税込)

『昭和の記憶』編
昭和20~40年代のモノクロ写真
見開きA3版 1200円(税込)

『昭和に活躍したマグロ船』編
激動時代に活躍した漁船たち
見開きA3版 1400円(税込)

気仙沼市内の書店 海の市・2階マリン倶楽部で発売中
です。唐桑地区は取扱店で販売中。

印象的だった。又、釣りの話になる。生き生きと目人が輝く。会社から頼まれ、人材を育てて来た。その後進身に譲り勝利の老後を過ごす。長い船員生活、本営に苦労様でした。又、長時間に渡る取材にご協力を頂き心から感謝を申し上げます。

記者が帰る時、大きな広い緑側の戸を開け、車が見えなくなるまでいつまでも見送ってくれた。いつまでも見送られる事をお祈りしています。

結婚、乙一取得

昭和三十八年、南方漁から帰る、知人の世話で現在の妻栄子さんと結婚をした。長女だつた栄子さんの千葉家に養子縁組、これ以降、実は千葉の姓を名乗る事になる。栄子さんの父親もやはりカツオ船の船乗りで気仙沼の勝栄丸に長く勤めていた。千葉、二十六歳、守るものが出来た。

翌年、耕洋丸(鋼船99ト)に乗る為、乙一(乙種一等航海士)の免許を取得した。これは船が甲海区で操業する為取得した。百屯未満なので乙二免状でも船長が出来たがより遠くの漁場の権利を取得した為、国際法により更上の免状でなければならなかった。その後、昭和四十年に耕洋丸が廃船された事から39屯型の近海マグロ船等に乗り出した。

当時、39屯型の船が流行した背景には昭和二十三年に遠洋カツオ・マグロ漁業が農林大臣の許可制になった。しかし、昭和三十一年に四〇屯以下の漁船は自由な操業を



忘れじの第7日康丸(木造/118t)

許可され、日本全国の港は39屯型の船で溢れ返った。しかし、時代とより遠い漁場を目指すようになり遠洋船との競争と共に海難事故も多発した。船員の間からはノーマン・サンキュー(39)や神風特攻隊とまで囁かれ、そして、敬遠された。昭和三十八年に全船許可制に変わるまで39屯型は続き、漁業法の改正により47屯型に増トン移行された。



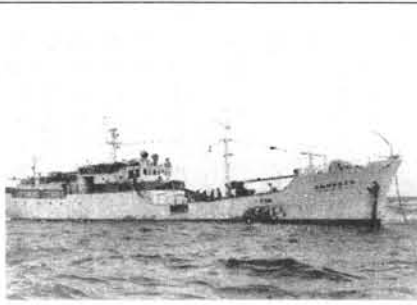
かつおの大漁

昭和四十年に入り第8正進丸等、当時の39船を乗り継ぎ、昭和四十二年、初めての凍結船・第8萬栄丸(192屯)に乗船した。萬栄丸では当時七十歳の高齢にも関わらず常に大漁をした阿部吉太郎漁労長が指揮をとっていた。ハワイ近海、北緯23度・東経135度付近を中心に操業し、当時話題となっていたメキシコ沖のマカ漁にも出漁し好成績を残した船であった。

神明丸入社

昭和四十三年、暮れも押し迫る十二月、神白水産から誘いがあり、第12神明丸(259屯)に船長で乗船した。この船は昭和三十五年に三重県の内田造船所で

建造された船。決して設備が良い船ではなかったが昭和四十五年一月に284屯の中古船を購入し、第35神明丸と命名、代船として移乗した。



西経漁場で操業中の第35神明丸

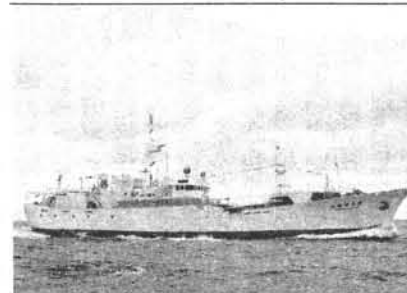
漁労長昇格

昭和五十三年三月、第8神明丸(284屯)が進水した。それまで指揮を執っていた船頭が移乗した。そして、3号にはこれまでの優秀な船長実績を買われ漁労長に昇格した。千葉、四十一歳の時だった。船員の半分もそのまま3号に残ってくれた。

初出漁は快勝

千葉は自分が船頭になったらやっていた漁場があった。船長時代から自分なりの漁労日誌を付けていた。気仙沼を出港して十三昼夜目に北緯20度、西経170度付近に到着し、適した後、初出漁の操業を開始した。幸い、この漁場は当時あまり操業していない船がなく、付近には和歌山県の船が一隻、操業していた。兄弟船の託送荷物も預かっていたがこの漁場を皮切りに南の漁場に展開していった。

投縄後、いよいよ揚縄開始。初めての漁獲を期待する時が来た。揚げ始めから1時間程度が過ぎた頃から期待は確信に変わった。小ぶりだが40キロ前後の良質なメバチが次々に揚がって来た。初獲のその日、2、7屯の好成績を収めた。



第3神明丸 284t

まちがいはなかった。初出漁の操業は滑り出しとなった。この航海、情報を聞きつけた僚船のマルハチ(神白水産の屋号)艦隊が全船、南緯の漁場を離れ、千葉の操業する海域へ向けた。そんな情報に指をくわえて見ている船はない。千葉の指揮する第3神明丸と和歌山県の船が一隻、操業していた。兄弟船の託送荷物も預かっていたがこの漁場を皮切りに南の漁場に展開していった。

山県の船が一隻、操業していた。兄弟船の託送荷物も預かっていたがこの漁場を皮切りに南の漁場に展開していった。この航海、情報を聞きつけた僚船のマルハチ(神白水産の屋号)艦隊が全船、南緯の漁場を離れ、千葉の操業する海域へ向けた。そんな情報に指をくわえて見ている船はない。千葉の指揮する第3神明丸と和歌山県の船が一隻、操業していた。兄弟船の託送荷物も預かっていたがこの漁場を皮切りに南の漁場に展開していった。

西経漁場に信念

初無事に航海を終えた千葉は徹底して当時、安定した西経漁場を調査研究した。そしてこれ以降、大西洋に好漁のさざしがあり、社船が全船、大西洋へ向けた時も千葉はひとり西経漁場を守り続けた。千葉は人間にも船頭にもマルチな芸当は出来ないし心に決め、西経漁場に徹した。昭和五十九年一月、時代は更新る大型船に移行し、神明丸でも例外なく379屯型の新造船・第31神明丸が新潟鐵工所で完成、竣工した。そして平成二年六月、現役最後の新造船・二代目の第8神明丸が進水、乗船した。

悲しい出来事

平成四年のある航海、いつもと変わらぬ投縄作業中に船員の一人が倒れた。内地との医療通信の結果、脳梗塞の疑いがあり、一刻を争う事態となった。すぐさま船を日かつ連所属のタンカー(洋上診療補給船)に向けた。タンカーには医師免許を持つ専門の船医が乗り込んでいた。タンカーの船医が本船に乗り込み、すぐさま処置が開始された。

現役引退

千葉は五十九歳で現役を引退している。いや、引退せざるを得なかった。そこには漁労長としての苦悩と壮絶な闘いがあった。遠洋漁船員は炭鉱夫と同等に社会保険における危険度と給付の等級が高い。労働基準を一般より早めていたのは過酷な肉体力労働を考慮してか他の職業より幾分か早い支給対象になっていく。五十五歳、これが遠洋漁船員の年金受給開始年齢である。今は社会保険庁の無駄遣いが響き、少しづつ受給年齢が上げられていく。しかし、千葉の過ぎた時代の計算では五十五歳である。



現役引退

千葉は五十九歳で現役を引退している。いや、引退せざるを得なかった。そこには漁労長としての苦悩と壮絶な闘いがあった。遠洋漁船員は炭鉱夫と同等に社会保険における危険度と給付の等級が高い。労働基準を一般より早めていたのは過酷な肉体力労働を考慮してか他の職業より幾分か早い支給対象になっていく。五十五歳、これが遠洋漁船員の年金受給開始年齢である。今は社会保険庁の無駄遣いが響き、少しづつ受給年齢が上げられていく。しかし、千葉の過ぎた時代の計算では五十五歳である。

洋上でダウン

平成八年、千葉はいつもの航海へ出漁した。この時はすでにこのクラスの遠洋まぐろ船の航海日数は比較的に早い西経漁場でも一年を越える船も出て来た時代だった。

出港から半年程経った頃風邪をこじらせたのか、妙に体調が悪い。途中、洋上でタンカー補給で乗船していた船医から診断してもらった。船医は処方されたが一向に効き目がなかった。船長は大抵の病やケガに効き目があると思われるクロマイシンを定期的に服用したがこれも効果が現れなかった。千葉は一向に回復しない体調が長くなっていく事から仕方なく液剤会病院へ連絡し、医療相談した。担当医はすぐ帰国せよとの事だったが任務上、船を戻す訳にも行かず、医者に勧められた最良の方法で処置をして急場を凌ぐようとした。しかし、無理がたたってついに来る時が来た。投縄中に作業の様子を見に行こうとしてブリッジからタラップを降りた時、急に吐き気がしたと思った瞬間、大量の吐血をした。自分ではもうダメかも知れないとさえた。とにかかく船員に気づかれないよう散水で吐血した血を洗い流した。見る見るうちに極端に体調が低下した。通信士に頼んで横になった。それから意識もうろうとして睡魔に襲われそのまま高熱に

船員とその家族

マングロ船の船頭とはやりがいもあるが孤独で命を賭すことできないと誰かが言った言葉が思い出した。現役時代は四時間の睡眠時間でやり通した。船頭は二十四時間戦隊体制と語る。船員とその家族のつながりを大事に、入港した時は東北一円の温泉へ旅行に出かけた。家族を呼んで食事会をしたり、沖での労をねぎらった。

陽気な姉妹がもてなす

ブーケ BOUQUET

宮城県気仙沼市神山5-2
TEL: (0226) 24-8158

新年おめでとうございます

リズムカル 情報交差点

有限会社 藤田新聞店

TEL: (0226) 24-4822 FAX: (0226) 24-4821
宮城県気仙沼市赤岩五駄鱈73-2

応援します! 水産漁業とその歴史!

造船技術と建築を融合する

運池(東京・皇居内) 2004年度 6つのデザイン賞 受賞

高橋工業

株式会社

国際標準規格 ISO9001 認証登録事業所
鋼構造物大臣認定工業 (Mグレード)

本社工場 / 〒988-0247 宮城県気仙沼市字波路上内沼38-4
TEL. 0226(27)3943 FAX. 0226(27)4613
ホームページ http://www.takahashikogyo.com

時代の流れ

元機関士 吉田昇

第十三話 『コロンビア米に泣く』

昭和三十六年

西インド諸島の南側、ベネズエラ北東沖で操業を続け四十回を繰り返した。入港すると六十代と思われる邦人が出迎えてくれた。前航海、入港した時は姿を見せなかったが今回は入港と同時に来た。その邦人は当座パランキリーヤに移住している。広島県出身なそうだ。世話になる代理店の人には日本語を上手く話せないのだから邦人は在港中、代理店に代わって色々世話をしてくれた。その邦人はコロンビア産の米は良質で味も良く当地に住んでいる邦人が皆食べているし現地の人も私も食べていると言った。コロンビア米を大量にコロンビア米を仕込み、専用の食糧庫にマイナス三十度で冷凍保管したのが失敗だった。



大西洋で操業する日本のマグロ漁船

ベネズエラの北東沖約百五十キロで操業中、米が底をつき、明日からコロンビア産の米だとコック長が言ったので、いよいよ良質のコロンビア米を食べると期待し喜んだ。朝食に食器にごはんを盛り口元に近づけると良質であるはずの米が米が異臭がした。口に入れて米が来ると、乗組員はコック長を一斉攻撃した。手を洗ったのか、良く研いだのかと問い質す。結局、炊き直した結果は同じだった。少しでも匂いを消すため、食器に盛りつけたご飯をお湯をかけ洗い流しお茶をかけ梅干で息をつかずに腹へ流し込んだ。全員がこんな事をしたら大切な清水が無くなってしまおう。上からの指示でお湯や清水で洗った流すのが禁止となり、コック長が手を変え、焼き飯や五目飯を作ったが、イヤな匂いは消えず、大切な材料まで無駄にしてしまった。私は白米にするまでの過程は分からないが稲を刈り取った後、良く乾燥せず白米にしたのか？それとも麻袋に入れ蒸し暑い所に長く積み重ねて置いた為現地では売りに成らない古米だったのかも？本当にあの時はい口車にのって、米を買いあ

の邦人に騙されたと思う、私達と二度と会う事が無いことを察知し、私達を騙し一つ儲けやるのが目的で近づいたように、個人で即席の冷凍食品やカップメンなどの食品を仕込む事が出来なかった。当時は個人での食品は、ミカン、桃などの缶詰類だけだった。カップ麺など個人の食べ物が無く揚げ縄作業中腹が空くので生きて来た目録鮭や黄肌鮭の心臓を塩水で洗い噛みつく、心臓がピクピク動くのがこれが本当に美味しかった。口の廻りには心臓の血が付き心臓食った仲間同志が顔に付いている血見て、互いに人食い人種と笑い合う。船には、乾燥のうどんや粉があるがこれも限られていた。私はいらぬや練り物を好まないのだが、この時は人並以上に食べたような気がする。会社や寮船と連絡を取り、西アフリカ沖で操業している三浦三崎港を船籍にする寮船から米を借りる事になり、再度西アフリカ沖へ向けた。移動中に近江中に三崎港から大西洋に向かう船に米や各家族から個人宛の託送を頼んだと船内に噂が流れた。西アフリカ沖で操業中の寮船と会合して日本米を借り受け数日ぶりで食べる炊きたての白いごはんが旨く、おかげで盛には見向きもせず、てんこ盛りした茶碗を手に腹に残っている。基地操業の終盤に入ると三崎で積み込んだ餌が不足気味になる。



現在のよう冷凍運搬船で託送して貰う事は容易ではなかった。そして現地では冷凍冷蔵庫が少なく容易に餌を確保する事が出来ない運良くこちらに来る三崎船籍の船に託送して貰う事があつたが会社や船頭は餌を確保するのに頭を痛めたと思う。漁が有ったので短い消費で満船することが出来餌の消費量が少なかったのが幸いだつたが限度がある残り餌が少なくなり親父（漁父）の指示で切餌を作ることになる。水温の低い漁場だと上がり餌（釣り針を再利用）するのだが、西アフリカ沖は水温が高く上がり餌は取れないので切餌を作るよう指示された。切り餌として使う魚は芭蕉棍木（羽生、バンショウカジキ）の先が突出しバンショウの葉のような背びれを持った魚。「帆を持つ魚とも言う一芭蕉棍木を三枚に下ろし長さ十二センチ、幅五センチ位のタンザクに切り、約三分の一の皮を残し、皮の部分が肉を厚めにして釣り針が

入る小さい穴を空け釣り針が掛かり易いようにした。この切餌を一枚の幹繩に二ヶ所使うので毎日800個を五人一組の交代で作った。バンショウカジキが多く来た時は餌の長さと同じに丸切り日にして凍結保管し、少ない日には解凍して作った。この作業は揚げ縄作業よりも辛かった。餌作り当番の人は揚げ縄作業の合間に休む事なく作るのだがその日に使用する数に達しなれば揚げ縄作業が終わった後も作らなければならなかった。皮の部分に専用のナイフで小穴を空けるのだがそれが大変だった。揚げ縄が終わってデッキに五人だけ残り、切り餌を作りに入るから魔睡に襲われ、一瞬眠ってしまふ。小穴をあけず切ってしまう事もしばしば。こんな時に限ってブリッジから親父（漁父）が見ている。「馬鹿野郎！気が付いてやれ！」と怒鳴られる。この頃の鮭船の餌はイカ、サンマのみで現在のようには鱈や鯛などの色々な餌を使っていなかった。バンショウの切身の餌に鮫が通常より多く食いついた。当時はメバチマグロなどの魚が多かつたので結構食いついた。現在では考えられないだろう。これも時代（とき）の流れなのだろう。

船舶仕込 米・酒 食品 プロパン 住宅設備 各種燃料

有限会社 **根口商店**

宮城県気仙沼市唐桑町唯越9-5

☎ (0226) 34-3511

著者紹介

1936年（昭和11年）8月5日、宮城県本吉郡唐桑町出身、昭和29年から平成5年まで39年間、主に神奈川三崎港にて遠洋鮭延縄漁船に一等機関士として職務を勤めた。平成十八年四月、自らの体験航海記『思い出の操業日記』を出版した。

現在宮城県気仙沼市東中才に妻と二人暮らし。

吉田昇氏

『昭和の記憶』第二弾

マグロ漁船写真展



昨年の八月、気仙沼港では初めての漁船写真展を開催した。地元漁業関係者を始め現役船員、船員OB等多くの市民が来場してくれた。中でも気仙沼市と本吉町には船員OBが集まる気仙沼・唐桑・大島・大谷の四つの「海友会」が全面協力して支援してくれた。この協力なしには「漁船写真展」は開催できなかったであろう。その船員OB達がかつて輝いた海へ夢と希望を持って船出した時代の写真展を今年も計画したい。当時記録したモノクロ写真のみで小規模に開催予定。

写真は一月末に発売予定の「仙台学」の表紙を飾る予定の写真。昭和三十年に撮られた写真には若き海の精鋭達がい。白い歯を見せ笑顔がな部分に焦点をおき、写真展を開催したい。



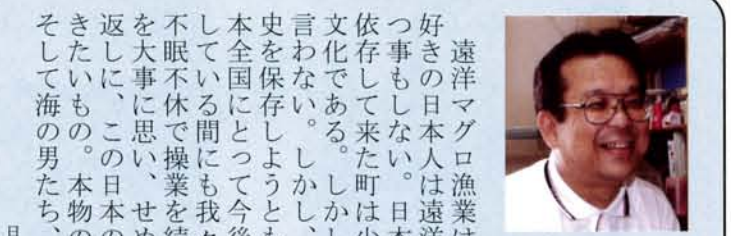
新年明けましておめでとうございます。ここ毎日のようにテレビや新聞が「マグロが食卓から消える！」と報道しています。つい最近まで、グルメ番組は「大間の大トロだ！」と「デカネタの回転寿司に行列！」とマグロブームをあおり、スーパー！とマグロ延縄船が締め出されようとして

パ一では激安マグロの特売で客を集めてきました。もうその時すでに日本は遠洋マグロ漁は存亡の危機にたたされておき、さらに追い討ちをかけるように各海域は漁獲規制を強め、世界の漁場からマグロ延縄船が締め出されようとしています。

マグロの保護を優先して資源が保たれても漁業が崩壊したのでは何にもなりません。とくにマグロは米を主食とする日本人にとってサシミ文化の象徴でもあり、資源にやさしい日本のマグロ延縄漁は次の世代に受け継いでいかなければなりません。

いま私たちができることは何か。生産者、消費者からの声が漁船ミニコミ紙「みなと便り」から発信されることを期待し、今もほるか沖合いで風波の中、マグロと闘っているマグロ漁師の航海安全と大漁をお祈りしています。

平成十九年一月元旦 斎藤健次



新年おめでとうございます。日本の遠洋鮭延縄漁の最盛期時代は北洋鮭漁業、北洋北転船、南氷洋捕鯨、以西底引き網、サンマにカツオ漁・とまさに魚づくし。将来の漁業の担い手となる人材育成が急がれた時代だった。

好きの日本人は遠洋鮭船をあまり知らない興味を持つ事もしない。日本の主要漁港、中でも遠洋鮭漁業に依存して来た町は少なくない。島国の日本ならではの文化である。しかし、好調な時代には誰も不平不満は言わない。しかし、遠洋鮭漁業の文化は存在しても歴史を保存しようとしてもしていない。これは港町、いや日本全国にとつて今後、大きな損失になりうる。今こうしている間にも我々日本人の食文化への供給の為に不眠不休で操業を続けている。そんな船乗りの気持ちに大事に思い、せめて良い時代を過ごさせてくれた恩返しに、この日本の遠洋マグロ漁業の歴史を残して行きたいもの。本物のマグロ船、歴史ある日本の鮭漁業そして海の男たち、鮭師を今年も伝えて行きたい。

月刊「みなと便り」編集者 熊谷大海

櫛風沫雨書

しづぶう もくう しょ



昭和五十年代前半、旧ソ連に日本の情報販りにドル箱北洋の魚を持ち帰る巨万の利益を得ていた船。その船を業界ではレポ船と呼んだ。

昭和六十一年四月、北洋漁場第七十一日船乗組員の沈没した。家族の苦悶を書き下ろした生録本。船員の間でドラマ

スタッフ一同、ご来店をお待ちしております

hana **華**

カフェド

気仙沼市仲町1-4-17 クリスタルビル

TEL (0226) 22-8715

謹賀新年

スナック **雅**

気仙沼市南町二丁目4-9

TEL (0226) 22-6070

居酒屋 **青い風**

飲み放題! 90分 男性 1500円 女性 1000円

各種ご宴会ご会合承ります

2階大座敷 (40~50名) をご用意!

TEL. 0226 (24) 4425

気仙沼市南町エースポ一ト向かい

新年おめでとうございます

一般建設・リフォーム・浄化槽設備工事・水道施設・上下水道 お気軽にご相談下さい!

有限会社 **ひかりホーム**

〒988-0551 宮城県気仙沼市唐桑町松園287

電話 0226 (31) 2695 FAX 0226 (32) 3866

新鮮旬の魚

昔懐かしの遠洋漁船展・店内展示中

謹賀新年



静かに奏でる語らいの空間を演出



飲み放題!

男性 880円 女性 770円

旬の美味しい お食事と 美味しい 酒処



- 営業時間 PM5:00~AM12:00 (ラストオーダー/PM・11:30)
- 定休日/毎週木曜日

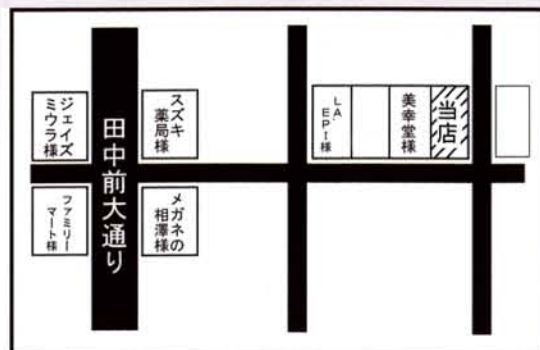
御宴会・御会合 御予約承ります

居酒屋 楓

~かえで~

電話(0226) 22-1711

宮城県気仙沼市田中前3-6-8



当店ご案内

匠の技



ゆとりの空間



自然の木立に囲まれたこだわりの家



禅のおもてなし

本物の木造りの家

宮大工が手掛ける家造り



落ち着いた和室への廊下



ゆとりの風格

迎春

建築・設計・施工
増改築のご相談もお気軽にお問い合わせ下さい

軍司建設

軍司行男

TEL/FAX (0226) 24-2856

宮城県気仙沼市河原崎131-4

応援します！水産漁業とその歴史！

かわせみの癒・宿 丸三館



賀正

気仙沼市東新城3-5-4
(デリーポート新鮮館隣) **TEL・FAX (0226) 24-0442**

- 宿 泊(素泊・・・2,500円)
- 宴 会(各種宴会・送迎バス・カラオケ)
- 味 処(館内・居酒屋“かわせみ”)
- 岩盤浴(営業時間：午前8時～午後10時)
- フット・フェイシャルエステ
- 文化教室(押花・日本舞踊・パンフラワー)
- 旅行企画取扱(“岩手県交通観光サービス観光協力員”)

新年おめでとうございます

まぐろ料理 **炊屋** かしきや



好評発売中!

俺たちのマグロ
まぐろ土佐船



斎藤健次

炊屋 <http://www.kasikiya.com/>

千葉県船橋市習志野台4-23-13 ☎(047) 464-9909

Hot & food gulf 謹賀新年



「夜8時～朝6時まで」
気仙沼市仲町1-4-17 クリスタルビル
TEL (0226) 22-0548

居酒屋 尾形 謹賀新年



◆夜9時30分～朝5時まで◆
気仙沼市仲町1-4-17 クリスタルビル
TEL (0226) 22-8013

海鮮家 幸治 謹賀新年



賀正
気仙沼市仲町2-4-27
TEL.22-2144

謹賀新年

気仙沼市上下水道
ガス公認工事指定店

小山設備
代表 小山幸治
22-4402
気仙沼市松崎柳沢35-70

日本拳法気仙沼支部
ショウザン

小山塾
面瀬道場
☎ 22-4402
毎週 月・金(夜7時～9時)

賀正 新車販売 中古車販売 一般整備

一般整備／車検／板金／自動車保険

東部オートサービス

気仙沼市赤岩五駄鱈55-1 (旧道沿い)
☎ (0226) 21-1488

発行

みなと倶楽部 編集室
熊谷大海

〒988-0827 宮城県気仙沼市和野160-22
TEL:0226(25)3777 FAX:0226(25)3888